

## 平成30年度第2回産業・経済部会（第1回研究会）議事録

日 時：平成30年11月5日（月）10:00～12:15

場 所：北海道本庁舎5階共用会議室

出席者：坂下部会長、奥田委員、青木委員、板垣委員、柿澤委員、小坂委員、小田委員、佐藤委員、東山委員、満菌委員

事務局：鶴原室長、中谷主幹、伊藤主査

### 1 開 会

### 2 議 事

- (1) 資料編作成の考え方について ー農業部門を例としてー
- (2) 今後の予定について
- (3) その他

### 3 閉 会

## 1 開 会

## 2 議 事

### (1) 資料編作成の考え方について ―農業部門を例として―

発表者：坂下部会長

資料編の作成手法を例示した会議資料等をもとに私案を説明。

- ・【資料1】をもとに北海道の農業史について説明。
- ・【資料2】資料編対応年表について説明。

横軸には、編さん対象の戦後から2000年までを置き時期区分を設定し、前後に前史部分の戦間・戦時期と21世紀以降の事象を置く。縦軸には、中項目と小項目を設定し、横軸との枠内に歴史的な事象を記載。それに対応した資料番号を落とし込む手法を解説。

- ・【資料3】年表に落とし込んだ12点の資料について説明。
- ・本資料を参考にして、資料編作成に当たっての最初の動機づけにしてほしい。

### ―各委員からの感想及び質疑―

#### 【奥田委員】

作業を進めていく上で、まずは年表を作り、時期区分を設定して、大まかな流れを把握するという坂下先生の作業手法は非常に参考になったのではないかと。

#### 【東山委員】

農業で30点という資料数はそんなに多い数ではないので、かなり資料を絞り込まなくてはならない。80年代半ば以降に農業が全般的に厳しい時期があったので、どうやって乗り切ったのかを中心に叙述していこうと考えている。今後、項目立てや強調点、何をピックアップするかなど十分に詰めていく必要がある。

#### 【坂下部会長】

最初から30点とするのではなく、3倍位とか多めに抽出してその中から選定する手法がよい。収集した資料は採用されなくても残されることになっている。場合によっては、資料を全て掲載せず抜粋するなどして調整することも可能。

#### 【柿澤委員】

資料イメージについて、グラフや表や図の転記の方がわかりやすいケースがある。また、直接的にそれを再現する文書を探しても見つからない可能性も想定されるが、グラフなどを資料として掲載して差し支えないか。

#### 【奥田委員】

特に産業・経済ではそのような性格が強いので、グラフや表の扱いが大きな問題になると思われるが、資料を載せるよりグラフや表を載せた方が一目瞭然という場合が多い。

#### 【坂下部会長】

例えば、【資料3】の資料2「殉職者も出た農地改革の事務」は、農地改革の結果や評価のみではなく、農地改革がどのようなものであったかという過程を知る上

でよい資料と判断して採り上げた。多くは『北海道戦後開拓史』等から抽出した。

**【奥田委員】**

資料2はオーソドックスな資料編の資料という印象。資料1や資料10のようになかなか文章の資料では出てこないが、データとして見せることにより一目瞭然になるケースが多いのではというのが柿澤先生の指摘だと思うが、産業・経済編の場合、このような事例が大きな特徴になってくるのではないか。

**【柿澤委員】**

山林関係の歴史書をつくるときは、資料集とともに伐採量の推移や産業別の生産高の推移など統計を資料編として後ろに付けるケースがよくあるが。

**【坂下部会長】**

それは通史の中で使用される資料の話で、むしろ歴年で数字を資料として残す方が資料編の資料らしい気がする。

**【奥田委員】**

この間の話では、「しりょう」の「し」を歴史の「史」ではなくて、マテリアルの「資」にするということで、資料として統計も該当になるということだったと思う。今までの話の流れでは、資料1のような統計の表も該当するものと受け止めていた。文献引用であれば、資料10を資料編の資料として扱って構わないという解釈かと思われるが、オーソドックスな資料9や資料11のようなものは、資料編に相応しいと思う。また、坂下先生が道庁のデータを加工して作った資料10については、元の道庁の数字の方が資料として相応しいかもしれない。

**【坂下部会長】**

そうなると、統計集のようなものと文書体のものが混在するため、体裁がおかしくなってしまうので、縦書きの資料や横書きの資料をいかにして一冊に掲載するかということも後で検討する必要がある。また、1中項目約40頁に文章や表、グラフのほか、各資料に解説を付けることになるが、読みやすさも重要なので、配置についても考えなければならない。

**【満菌委員】**

今回掲載した資料は、主に刊行本から拾ってきたものと思われるが、資料編の考え方として、なるべく一次資料から取るべきか、特にこだわらずに代わりになるものがあれば刊行本からも取っていくのか教えてほしい。

**【坂下部会長】**

行政資料はまとまっているので、行政資料を出すのであればどこから取ってきても同じだと思われるが、例えば資料3「旧土人給与地の農地改革」は、『北海道農地改革史』の編者がまとめて叙述したものであり、資料として相応しいかは疑問。資料2は同時期に編集されたものであり、資料的な価値はあると思う。

**【満菌委員】**

歴史研究者の感覚では、なるべく一次資料から取るのが基本。今回掲載されている資料は、通史編を書く際の材料として資料が並んでいるといった印象。もちろん材料にもなるが、資料自体の価値を重視して資料編に載せるという考え方もあると

思う。資料編の考え方としてそのバランスがどうなのかという点が少し気になったところ。通史編を書きやすくするのであれば、加工された二次的な文献の方が並べた時に書きやすくなると思うが、資料編をわざわざ作るのだから、このような資料があるということを示すという意味でも、一次資料を取ってくるというのがオーソドックスなのかなと思っていたので、その辺の考え方をお伺いしたい。

**【坂下部会長】**

現代史の資料編がどのようなものなのか。今までは、蔵から見つけてくるという発想だったが、むしろ創造的に中身を考えていく方がおもしろいかもしれない。

**【東山委員】**

資料編は一度作ったら数十年は刊行しないのだから、今これは残しておきたいというものを自由にピックアップするような感じでいいと思うが。戦後の動きはかなりエポックがあるので、エポックメイキングにつながるもので、これは残しておきたいと思う資料をまずは集めるようにしたい。

**【坂下部会長】**

可能な限り多くの資料を集めて、その中からピックアップするという方法でもよいと思う。

**【佐藤委員】**

一次資料のことに関連するが、個人が所蔵する資料を最終的に道庁に納めると、本人の手元に残らなくなってしまうが、そういった資料の扱いはどうなるのか。

**【事務局】**

基本的に資料は複製で収集する。

**【板垣委員】**

資料編の扱いについて、今後、研究者が利用するときのために価値があるものを残してゆくのか、あるいは、本編の文章に即したものとして選んでいくのかによって選ぶものも違ってくる。研究者のためという話であれば、一次資料を中心に選ぶものと思われるが、あまり刊行されていない資料にこそ価値があるという選び方もあるのではないかと。それにより資料編の扱いをどうするのかということに関わってくると思う。統計の話ですが、例えば、通産政策史などは、統計・資料編ということで、統計と資料の部分に分けて作られているが、そのようなものになるのか。

**【青木委員】**

今までどのような方法で資料をピックアップしていけばよいかという感じがあったが、今日は年表をベースにという手法を示してもらえたので、ある程度理解できるようになった。産業・経済の性格上どうしても統計データが多くなってしまいかもかもしれないが、統計資料2のようなものは、表やグラフよりも非常に受け止めやすい印象があるので、こうした時代の情緒的な部分を盛り込んだものをピックアップしていく必要があると思う。

**【小坂委員】**

年表を作っていたのは、イメージを上げるのに大変参考になった。資料編は、通史を書くのに参考にすべきものが出ているものとしか考えておらず、先

に資料編をつくるという発想がなかった。もし、先に資料を載せることを目的とするならば、自分の考える時代区分と項目にどんな資料が当てはめるか検討し、1次資料を基本にして資料的価値の高いものを資料編に残すという作業になると思われる。ただしその場合、通史を書くときにどうなるのか。通史は北海道の流れを全体的に把握することに重きが置かれると思うので、細かい部分は端折られて書かれていく。そうすると、通史編と資料編の目的にギャップがあるような気がするので、そこを統一するために部会の中でどういう通史を書くのか基本線を示してもらえれば、資料の探し方も少し方向付けができると思う。

**【小田委員】**

今日こういう形で示していただいたので、少し作業のイメージをつかむことができた。年代別に戦前から書かれている点について、どのくらいの割合で、かつ、どこに重点を置くのかが少し気になる。また、前回の新北海道史では1970年代まで扱われているため重複することになるが、今回の道史では全く新しい内容になるのか。

**【坂下部会長】**

戦時期までは前史ということで、対象とする時代と関連する事項を挙げた。資料編の対象は基本的に戦後でよいが、通史を叙述する場合は、戦前から触れて戦後に関わる部分を整理する必要がある。例えば、拓北農兵隊は戦前だから含めないということにならないので、今回は採り上げた。

**【小田委員】**

最後のグローバル化期について、農業でも国際化との関わりが全くなかったわけではないので、何か入れることになるのでは。

**【奥田委員】**

今の資料のあり方の議論ですが、他の部会との関わりもあり得るかと思うが、今の議論で事務局としてこのようなというものはあるか。

**【事務局】**

他県史の例でしかわからないが、グラフのようなものは、通史の方に書いて、説明を加えながら見るものとして掲載されているものが多い。統計的なものも青森県史だけは、統計編としてディスクに入れて添付している。政治・行政から経済・社会まで統計的なものは全てディスクに収めて、資料編本体には文字や図のようなものだけ。やはり一次的な資料を文章として入れていて、資料編だけを見てもその時代の幅と奥行きがなんとなく感じられるような資料編を作っているケースが多い。

通史編の方は最近一般人向けにわかりやすく書かれているが、一方の資料編の方で深く突き詰めたい人にはおもしろいと思わせるようなつくりをしている傾向がある印象。

**【満菌委員】**

通史編を叙述するときには、資料編に出した資料を出典にしながら書くというスタイルになるのか。

**【事務局】**

この資料は、資料編の何頁にあると書いている県もあるし、全くそのような注記を入れずに、読みやすく教科書的に書くスタイルと両方ある。

**【奥田委員】**

例えば、CDを付けるなど叙述するスタイルは最初に刊行する予定となっている我々の部会で判断してよいか。

**【事務局】**

産業・経済部会で資料編1冊を与えられているので、これに統計として載せるか載せないか、資料編にCDを付けることについては、部会の判断で決められると思う。

**【坂下部会長】**

先行して作業する方で、細かい疑問点が色々出てくると思うので、ある程度こちらで検討してから他の部会に諮る形になると思う。

**【奥田委員】**

最近の資料の場合、全て手書きの1次資料というものが少なくなり、何らかの形で刊行されているものが増えると思うが、その刊行物をどう評価するのか。極めて部分的に社内報のようなものか、それとも一般的に市販されているものなのか、そのような違いが出てくるものと思われる。その点ではできる限り1次資料的なものや、刊行されたものであっても情緒的な雰囲気を感じられるものなどに配慮しながら、全体として今回坂下先生が出してくれたような性質の資料は全て資料編の資料の対象になり得るということで、当面我々は考えていくということによろしいか。そして、全くのデータについては、それぞれの先生方が統計データからピックアップしてきて作るようなものに関して言えば、場合によっては、CDにすることへの検討もあり得るということで進めていってよろしいか。

**【小田委員】**

基本的な統計はどこかで提示してもらえるのか。例えば、国勢調査の人口を1945年から現在までつなげるとか、工業統計や商業統計などの基本的な統計のほか開発予算なども該当すると思われるが、そのようなものをどのようにして扱うのか教えてほしい。

**【坂下部会長】**

今の体制では統計編をつくるというプランはない。実際に通史の中で書く場合はその担当者が作ることになると思う。こういう統計が必要となれば、事務局にデータの収集を対応してもらい、資料編の中ではそのような作業は出てこない予定。

**【小田委員】**

あちこちでだぶっても構わないということか。

**【坂下部会長】**

各々の委員が作ってきたら、対応するという話で、資料編の中で統計編を作ることにはなっていないので、部会の中で資料の枠を広げて統計も入れることになると思う。

**【佐藤委員】**

坂下先生が作ってきた資料でイメージが湧き、これから検討していきたいと思うが、中項目と小項目については、今後もこういう部会の場合などで再構成することになるのか。また、先生が作られた年表では、年代と作業区分で分けているが、年代で構成し直してもよいと思ったが、その辺はどのようにお考えなのか。

**【坂下部会長】**

中項目と小項目の構成については今後部会で検討していく。年表については、マトリックスにして選ぶという、自分ならこうするという手法を例示しただけである。

**(2) 今後の予定について**

**【坂下部会長】**

次に2番目の「今後の予定」について、今回のような研究会を開催するのに委員の皆さんに週間予定のアンケートを出したところだが、全員の参加は難しいようなので、参加できない方がいても開催できるよう事務局と相談して考えていきたい。できれば年内に誰かに発表してもらい、再び研究会のようなものを実施できればと思っている。

**(3) その他**

**【事務局】**

先日、メールでお伝えした東京の国立公文書館に資料調査に行く件だが、先生がたと一緒に行くという手法もあるが、まずは事務局の方で先鞭を切って、こちらでできることをしていこうと考えている。必要な公文書のキーワードなどを知らせてもらえれば、それを使って公文書をピックアップして資料を集めて来ようと思っている。国立公文書館のホームページにデジタルアーカイブとして画像で見られるものもあるが、見られないものについては私どもの方で国立公文書館に行ってコピーや写真を撮って来ようと考えており、そのような必要な公文書等があれば、お知らせいただければと思うので、よろしくお願ひしたい。

**【事務局】**

資料調査について、満菌先生が先日小樽の商工会議所へ資料調査に行っていたが、今後も全道の商工会議所にも行かれると聞いているが、他の委員の皆様もぜひ積極的に調査に行っていただければと思う。

**【坂下部会長】**

皆さんもなるべく早めに資料調査に一步踏み出すことをお願ひしたい。

**4 閉 会**

(了)